

## 電子情報工学科の教育改善システム内規

**1. 学科としての教育改善**：PDCA サイクルとして学科会議に加え、下記の JABEE 委員会ならびに自己点検委員会を設置する。これら会議ならびに委員会の役割と相互の関係を図示する。

1) **学科会議、JABEE 委員会**は、学科運営に関する議事ならびに学科全体の教育改善に関する計画・立案 (Plan)、実行 (Do)、点検 (Check)ならびに改善 (Action) する会議で、学科の教育改善の中心となるものである。

学科会議のもとには、基準 1 から 4 までのワーキンググループ (以降、WG 1、WG 2、WG 3 ならびに WG 4 と呼ぶ) ならびに学科内 JABEE 委員会 (以降、JABEE 委員会と呼ぶ) を設ける。WG は基準ごとの PDCA を回し、JABEE 委員会の指示で学科会議に報告する。JABEE 委員会は WG ごとの PDCA サイクルの進み具合を把握し、各 WG の連携した活動を支援する。

まず、WG1 から WG4 では基準に沿った計画・立案 (Plan) を行い、JABEE 委員会の指示で学科会議に報告する。学科会議では各 WG から報告される計画・立案を検討し、改善案を提言 (Do) する。学科会議における提言を踏まえ、それぞれの WG で新たな計画を実行 (Do) する。実行する改善案の具体化は各 WG で行う。すなわち、WG ごとに計画・立案を具体化し (Plan)、実行 (Do)、点検 (Check)、改善 (Action) を行う。

JABEE 委員会は各 WG の状況を把握し、各 WG に指示をして、年 1 回、学科会議に報告させる。

学科会議ではこれら WG の改善 (Action) の結果を取り纏め、自己点検評価委員会に報告する。報告を受けた自己点検評価委員会では、教育改善におけるシステムとしての問題点の把握 (Check) をし、改善案 (Action) の提言を行う。自己点検評価委員会からの報告を踏まえ、学科会議では教育改善システムの改善案を立案し (Plan)、実行 (Do) する。

JABEE 委員会は、学科の教育改善における WG の活動を把握し、全体をスムーズに動かすための組織である。WG 同士の連携に努めると共に、年 1 度の学科会議への報告書提出を各 WG に指示する。

WG 1：基準 1 に基づき、学習・教育到達目標の設定と公開を行う。学習・教育目標の設定を行い (Plan)、公開し (Do)、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等を考慮し、また社会の要求や学生の要望にも配慮して、学習・教育目標の見直し (Check)、改善 (Action)を行う。卒業生へのアンケートなどにより学生の意見を反映させる。

WG 2：基準 2 に基づき、学科の学習・教育到達目標を達成できるようにカリキュラムを設計し、各学習・教育到達目標の科目編成を行う (Plan)。シラバスを通して学生に周知

させ (Do)、点検 (Check)、改善 (Action)を行う。

WG3：基準3に基づき、プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準を定め (Plan)、それに従って評価する (Do)。評価結果を検証する (Check)ことにより、改善 (Action)を行う。

WG4：基準4に基づき、プログラムの教育活動を点検する仕組みを設け (Plan)、実行 (Do)する。授業科目について、シラバス等の授業計画を話し合い (Plan)、ピアレビュー (授業参観) などの形で日常的な点検を行い (Check)、学生による授業評価を反映させたリフレクションペーパーをもとに改善案を話し合い、実行 (Action) する。改善案の話し合いには数科目ごと的小グループを単位とし、実行のスピード化を図る。また、PDCA サイクルの継続的活動を検証する。

学科会議は、また、学部の各種会議 (学部運営委員会、教授会、教務委員会、FD 委員会など) からの計画・立案 (Plan)に関する審議・実行 (Do)を行う会議ともなる。

**学科会議の開催間隔**：隔週の開催とする。

**WG の会議間隔**：適宜、開催する。また、年1度、計画ならびに改善結果を学科会議に報告する。学科会議は WG の改善 (Action) の結果を取り纏め、自己点検評価委員会に報告する。

**JABEE 委員会の開催間隔**：適宜、開催する。

2) **自己点検評価委員会**は年1回、定期的で開催する。その年度の学科の教育改善を自己点検し、基準ごとの WG から報告された点検項目をチェックし、検証 (Check) を行う。洗い出された問題点をまとめ、改善案 (Action) としてまとめる。

また、年度ごとにその1年間の教育改善システムも自己点検し (Check)、改善案 (Action) の提言も行う。その際、学科の1年間の教育改善活動に関して第三者の意見も収集する。組織としての教育改善の PDCA システムが機能しているか、教育の質、学生の質は保たれているか等の検討を行います。

学科会議が日常的な業務を計画・実行するのに対し、この委員会では、学科の将来計画も見据えた複数年次にわたるカリキュラムの評価・見直し・計画を審議し、策定・実行する。

**開催間隔**：年度ごとに1回 (学年末に開催)

これら2つの委員会の関連を図で示したものが下記である。矢印は提言の流れや相互の関係を示す。

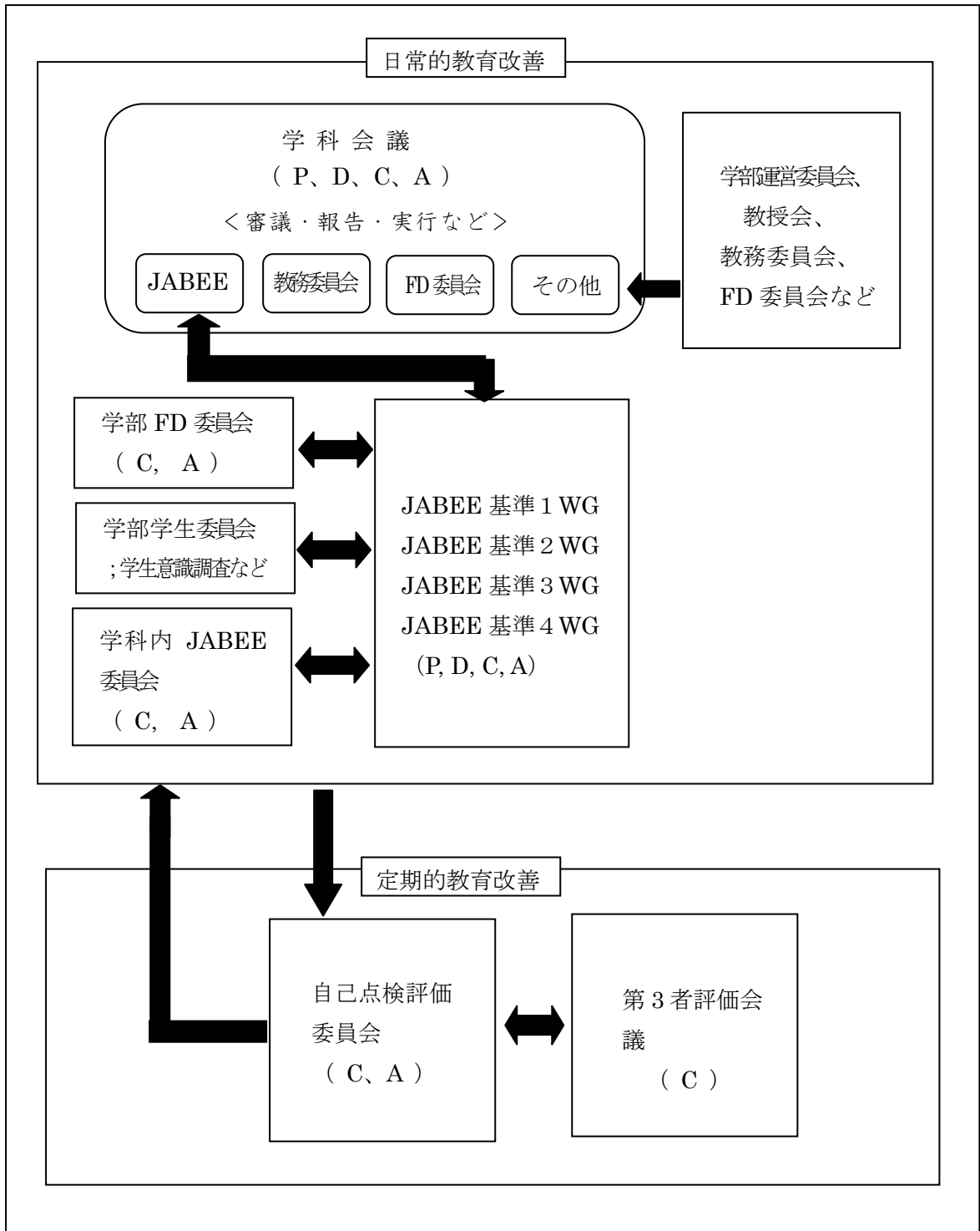


図 1 電子情報工学科の組織的教育改善システム

(P:計画 Plan、D:実行 Do、C:点検 Check、A : 実行 Action)

学部 FD 委員会へは必要に応じて学科での教育改善の点検を依頼し、より良い改善策の提言を受ける。

さらに、学部外の方で第 3 者評価会議を構成していただき、自己点検評価委員会を通して学科の教育活動ならびにその改善策の実行の点検を受ける。

**2. 教員個人としての教育改善：**個々の教員についての PDCA サイクルも行っており、授業改善として実現している。

1) **シラバスの作成・授業計画 (Plan)：**シラバスは、その科目が単に専門知識を教えるのではなく、学科が掲げる学習・教育目標の到達とどのように整合しているかを重要視して作成している。学科の学習・教育目標との関連を記載するのみならず、各授業コマごとに到達目標を詳細に記述し、授業の最初に印刷物として配布して、学生への徹底を図る。また、成績評価についても説明する。

2) **授業の相違工夫 (Plan, Do)：**授業では各コマの到達目標が達成されるように、様々な創意工夫が行われ、日常的に計画、実施している。

3) **相互の授業参観 (Check, Action)：**講義中の学生の反応を授業改善に生かすとともに、工学部としてシステム化しているピアレビュー（授業参観）ならびにメールによる情報共有により、授業の見直しと改善を行っている。

4) **授業評価アンケート (Check)：**学部としてすべての科目で授業評価アンケートを実施しており、各セメスターごとの授業の取り組みがチェックされる。

5) **リフレクションペーパー (Action)：**授業評価アンケートの結果を検討し、次年度の授業の改善へとつなげる。

6) **講義資料監査 (Check, Action)：**講義資料、学習・教育目標の資料（シラバスのコピー）、成績、出席、レポート、小テスト、試験問題、試験問題回答、授業評価アンケートならびにリフレクションペーパーをまとめ、到達目標との整合性も含め、相互に監査する。

これらの関係を書いたものが次の図である。

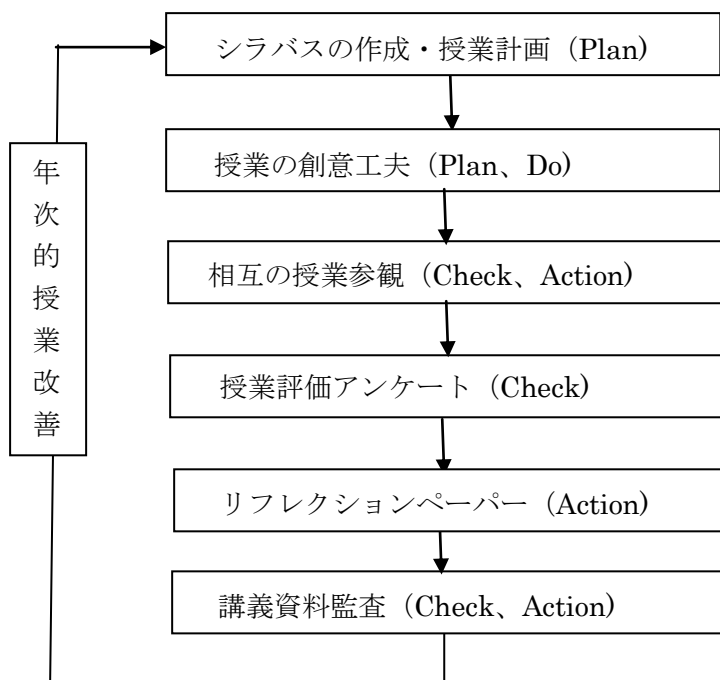


図2 電子情報工学科の教員ごとの授業改善システム

補足：1. この内規は平成24年4月1日から実施する。